

会 議 録

会議の名称		令和5年度第2回守谷市上下水道事業審議会		
開催日時		令和5年12月12日（火） 開会：13時58分 閉会：15時00分		
開催場所		上下水道事務所 2階 大会議室		
事務局（担当課）		上下水道課		
出席者	委員	渡邊委員、佐々木委員、早野委員、野場委員、川崎委員、馬原委員 （出席6名/8名）		
	事務局	北澤所長、枝川課長、野口課長補佐、新井係長、石毛係長、西主任、椎貝主任、亀井主事、小山主事 （計9名）		
	委託業者	(株)中央設計技術研究所 佐竹氏、半田氏 (株)オリエンタルコンサルタンツ 清水氏 （計3名）		
公開・非公開の状況		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0 人
公開不可の場合はその理由				
会議次第		1 開会 2 会長あいさつ 3 議事 協議事項 (1) 副会長の選任について 報告事項 (1) 守谷市上下水道事業経営戦略の改定について (2) その他 4 閉会		
確定年月日		会議録署名		
令和5年12月20日		会長 渡邊 達夫		

審議経過

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事

協議事項（1）副会長の選任について

副会長は、佐々木委員に決定。

報告事項（1）守谷市上下水道事業経営戦略の改定について

【事務局（石毛）より説明】

○委員からの質疑等

佐々木委員：非常に分かりやすい資料でした。その中で、料金改定のグラフをなだらかに変更するという説明でしたが、それは階段状ではあまりにも刺激が強すぎるからでしょうか。

事務局（石毛）：改定年度も改定率も確定した数値ではないため、数値が独り歩きしないようなだらかに変更したいと考えております。

馬原委員：いろいろな数値モデルを使用して推計されていると思われませんが、モデルの精度や確率等はいかかでしょうか。

事務局（石毛）：例えば物価上昇では年 1.5%を見込んで推計しています。

馬原委員：最近の物価上昇では年 2.0%を大きく超えています。どのような数値を入れるかによっての変動は大きいと思います。また、いろいろな原価も上がっており、例えば水道水を作る原価も上がっているため、そのあたりはいかがでしょうか。また、人口減少にしても、人口動態モデルを使用されているかと思いますが、どのように変化するのか、守谷市の人口が将来的に減少していくのか増加していくのかによってなど複雑に絡んでいるため、そんな簡単にはいかないと考えます。

事務局（石毛）：おっしゃる通りいろいろな不確定要素がある中ではありますが、シミュレーションとしてまとめていかなければならないため、人口においては、守谷市の最新の人口ビジョンを反映しています。

馬原委員：人口の減少が一番要因として大きいのではないのでしょうか。また、汚水の処理に関しても単価が上昇していくと思います。それは単に人口減少だけでなく、老朽化なども要因の一つだと思います。例えば、汚水や水道もそうですが、配水池から送り出した水は、また配水池に戻ってくるのでしょうか。送り出した水を無駄なく全部使い切ることはあるのでしょうか。

事務局（枝川）：配水池のタンクから水を送り出していますが、漏水等を除いては、各家庭の蛇口から出ているものとなります。

馬原委員：漏水を気にしているのではなく、送り出した水は全て使われているのでしょうか。そうでない水はどうなるのでしょうか。

事務局（枝川）：常時タンクより送り出しておりますので、使い切れない水は基本的には

ありません。

事務局(北澤)：守谷市の水道水は茨城県より購入しております。使用量に対して供給量を調整しております。皆様が使用するほど県より購入し、それほど使用されなければ、購入量も少ないといった形で調整をしておりますので、余らないように県から水を購入しております。

馬原委員：それはかなり難しいことではないでしょうか。

事務局(北澤)：過去の実績等をもとに水の使用量が多い日少ない日の傾向を予測し、需要と供給のバランスを調整し、無駄な水が発生することのないよう経費削減に努めております。

馬原委員：水道と下水で評価の時間が違うのはなぜでしょうか。

事務局(石毛)：今回では、水道事業は令和40年度まで、下水道事業は令和50年度まで推計を実施しております。これは、管渠の耐用年数を目安として考えております。水道管の耐用年数は40年であり、下水管の耐用年数は50年となっているため、布設替を実施するまでの1サイクルを推計期間と考えております。

馬原委員：この結果だけでは違和感があると思いました。

早野委員：2つ質問があります。1つ目は、資料①の9ページにおいて、人口減少に伴い収益的収入が減少することは理解できますが、収益的支出が伸び続けているのはなぜでしょうか。一方で、資料①の22ページの下水の推計ではその傾向はあまり見られないので、その違いは何でしょうか。2つ目は、資料①の25ページの建設改良費が現行計画と比較して、3倍近く上昇していますが、減価償却費が7%程度しか上昇していないのはなぜでしょうか。設備投資をすればその分減価償却費も上昇するのではと思いました。

事務局(石毛)：まず1つ目の質問に対する回答です。水道の収益的支出が上昇し続ける要因としては、物価上昇が大きな要因です。年1.5%の上昇を考慮しており、長期的にみると、令和40年度では倍近くになってしまいます。また、改築更新に伴う減価償却費の増加も要因の一つとなっております。水道事業では主に管渠の更新となっているため、耐用年数40年の管渠の減価償却費が増加し続けます。2つ目の質問に対する回答です。下水道事業が水道事業と異なり収益的支出が上昇し続けない要因としては、減価償却費が大きな要因です。下水道事業の改築更新費用は資本的支出として資料①の24ページに記載しております。令和10年度から令和20年度まで資本的支出が吐出している年度が多くなっており、浄化センターの機械の更新が主なものとなっております。機械の耐用年数は概ね20年に設定されているものが多いため、収益的支出においては、管渠のようにならずと減価償却費が上昇し続けるのではなく、令和25年度頃をピークに一旦落ち着き、その後管渠の改築更新により上昇傾向が続くものと推計しております。また、下水道事業の建設改良費が3倍近くになっている要因は、浄化センターの機械において、現行の経営戦略では、金額に上

限を設定し、積極的な更新はしていませんでした。しかし、下水の施設更新計画であるストックマネジメント計画を経営戦略と同様に見直しを実施した結果、耐用年数の2倍を経過した機械もあるため、ある程度積極的に更新を実施しないと耐えられないという結果となり、適切な更新費用を計上したことで、上昇が大きくなりました。

渡 邊 会 長：今回の資料はあくまでも素案のため、今後数値等をさらに精査し、完成形としていただきたいと思います。

馬 原 委 員：技術革新はどの程度考慮されていますでしょうか

事務局(石毛)：管渠の更新ではAI等を活用したり、先進技術を活用することで、コストを削減していきたいと考えております。

馬 原 委 員：将来推計を見ると、今後ずっと費用が上昇していくこととなっており、市民は驚くと思います。将来的な技術革新をどの程度見込むかも大事だと思います。そうでないと、頻繁に上下水道料金を上げていくこととなり、市民は動揺すると思います。そのあたりは考慮した方がいいのではないのでしょうか。

事務局(北澤)：今回は計画期間10年間のうちの中間見直しであり、5年後に計画の改定を実施します。その時に新たな技術を見込んだり、物価上昇の見直し等を行うことで、料金改定の時期も変化すると思います。定期的に計画を見直していくことで、その時点での状況を市民の皆様にお示しし、理解を得ていくことが大切であると考えておりますので、今後もいろいろなご意見をいただきながら進めていきたいと思っております。

報告事項(2) その他

【事務局(枝川)より説明】

<前回審議会時の質問事項に対する回答について>

- ① 内部留保資金の推移について
- ② 外部委託の割合と概要について
- ③ 消化ガスの売却代について

<次回の審議会開催時期について>

- ・2月中旬頃開催予定

4. 閉会

以上